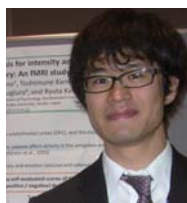


卒業生の声 母校を語る

宮川敦志さん

東北大学医学部医学科

(海城高等学校2006年3月卒)



プロフィール

2006年3月、責任を伴う自由と本質的な学問を体験し、海城高等学校を卒業。1浪後、東北大学医学部医学科に入学。2011年「東北大学医学部学生奨学賞」受賞。現在、医師国家試験を目前の6年生。

昨年度、宮川さんは「脳機能イメージ研究」に関する国際学会発表で東北大学医学部学生奨学賞を受賞しました。医師国家試験に向け勉強する傍ら、その研究を論文にまとめている宮川さんに、中学高校時代について伺いました。

中学時代から関心の高かった 医学をテーマに卒論に挑戦

海城中学校の特徴的カリキュラムに、社会科総合学習科目で課される卒業論文があります。中学1年から自らテーマを探してレポートを執筆し、中学3年次には400字詰め原稿用紙30~50枚の卒業論文に挑戦します。

当時から医学に関心の高かった宮川さんの論文は、研修医制度の不備と研修医による医療事故との関係についてまとめたもので、データ収集、文献引用、関係者への取材、考察、提言から成る秀作です。

「医療事故をよく耳にした同時期に、研修医制度も過労死などの問題があると知って、その関係性に着目しました。当時、先生に言われたことは『文献をまとめるだけでは論文ではない』ということ。外部への取材は必須だったので、様々な立場の人の意見を集めること、一貫性のある内容にまとめること、自分独自の考察を心がけました」と宮川さんは当時を思い出しながら語ってくれました。

卒論は完成までに、先生に何度もダメ出しされ、その度に心が折れそうになったそうです。「ただ、先生のきめ細かいフィードバックによって、クオリティの高い論文に仕上がりました。医学部では論文の書き方を一から指導してくれることはありませんが、情報収集力や書く力、思考力の基礎は、中学時代に身についたと実感しています」。

医師であると同時に 一人のサイエンティストに

その後、高校2年次には理科コースに進んだ宮川さんは、医学部進学に向けて課外講座「医学部小論文講座」を受講しました。しかし、この講座は単なる医学部受験の小論文・面接対策ではなかったそうです。「医学の話題は多岐に亘るため、多くの文献にあたり、知識を蓄えなければ論じることができません。また、知識だけに依らず、自分の意見を述べることも必要です。医学や医療に関する現実の問題に十分触れることで、目的意識をもって医師を目指してほしいという学校の方針を感じました」。

医師国家試験に合格後は、卒論で取り上げた研修医制度に身を投じる宮川さんに、今の思いを尋ねてみました。「研修医を取り巻く環境は以前に比べて良くなりました。しかし、一つの問題が解決すれば、別の問題が生じるものです。今、海城生だったら、新たに生じた研修医制度の問題点をテーマにしたでしょうね。海城は詰め込み教育ではなく、受験の枠にとらわれない学びを提供してくれます。医学部もまた、詰め込み教育と思われがちですが、実際は前進し続けるサイエンスを学ぶ場でもあります。将来は医師であると同時に一人のサイエンティストとして、常に最先端の研究に関わり続けられる臨床医を目指します」。



中学生のレベルを超えた論文執筆で 高い情報収集力と思考力を習得

School Information

- 所在地 〒169-0072
東京都新宿区大久保3-6-1
- 電話 03-3209-5880
- 校長 水谷弘
- 創立 1891年
- URL <http://www.kaijo.ed.jp>
- アクセス JR山手線新大久保駅 徒歩5分
東京メトロ 副都心線 西早稲田駅 徒歩5分
JR中央線・総武線 大久保駅 徒歩10分
JR山手線・地下鉄東西線
高田馬場駅 徒歩12分
地下鉄 副都心線 大江戸線東新宿駅 徒歩12分